

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/04/02

相場の主役は一旦ドルと円に

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	債務懸念は一服 予想レンジ: 106.30 ~ 114.00円	2 - 3
ユーロ/ドル	➡	ドルの方向性がカギに 予想レンジ: 1.2950 ~ 1.3600 ドル	4 - 5
ポンド/円	➡	主要国株価に連れる動きがメインに 予想レンジ: 126.50 ~ 138.50 円	6 - 7
ポンド/ドル	➡	英米の金融政策を確認 予想レンジ: 1.5500 ~ 1.6600 ドル	8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	108.09円	111.42円	105.64円	110.56円



①	6日、前日の中国全国人民代表大会で同国政府が2012年の成長率目標を7.5%に引き下げた(前年は8.0%)事や、(8日が締め切りの)ギリシャ債務交換への民間債権者の参加率が低調なものとなるなどの憶測から欧米株価が下落すると、リスク回避の動きが強まり、ユーロ/円は105.64円の安値を付けた。
②	8日、本邦1月経常収支が過去最大となる4373億円の赤字を計上したほか、2月上中旬の通関ベース貿易収支が赤字(686.6億円)となった事を受けて円売りが強まった。さらにNY市場では、一部メディアが、この日(日本時間9日5時)が参加表明期限となっていたギリシャの債務交換について「民間債権者の参加率が集団行動条項(CAC)を発動しない水準とされている90%を上回った」と報じると、ユーロ買いが活発化し、ユーロ/円は108.46円まで上昇した。
③	19日、ギリシャ政府が一部の民間債権者に債務交換を強制した事から信用事由(保険金支払い)が発生していた同国ソブリンCDSの売り手側の負担が額面の21.5%となり、市場に混乱を及ぼすほどの支払い額ではなかった事や、欧州中銀(ECB)が前週の国債買い入れ額がゼロだったと発表した事を受けて債務問題に対する懸念が和らぐと、ユーロ/円は昨年10月31日以来となる110円台に上昇した。
④	21日、アジアから欧州市場序盤にかけて株高が進行した事を好感してユーロ/円は111.42円の高値まで上昇した。しかし、米2月中古住宅販売件数が予想を下回るやや弱い結果となるとNYダウ平均株価が下落。さらに米大手金融機関のエコノミストがスペインの債務再編リスクを指摘した事もあって、ユーロ/円は110.05円まで下落した。
⑤	22日、中国のHSBC3月PMI製造業が前月から低下した事を受けて欧州株が弱含む中、スペイン10年債利回りが上昇した事に加え、独3月PMI製造業・速報値が48.1となり、予想(51.0)外に好・不況の分岐点である50.0を下回ると、ユーロ/円は108円台まで値を下げた。
⑥	26日、メルケル独首相が「EFSFとESMを並行稼働させる可能性がある」などと発言した事を受けてユーロが上昇。さらに米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が「雇用市場に大きな進展をもたらすために金融緩和は必要」などと発言すると、米国の追加金融緩和観測が再浮上してドルが売られ、ユーロ/ドルが急伸した。米国の追加緩和観測を好感してNYダウ平均株価が大幅に上昇した事もあってユーロ/円は110.68円まで上値を伸ばした。
⑦	29日、中国の景気減速懸念を背景に上海総合株価指数が2日続けて大幅安となった事に加え、スペインで緊縮財政に反対する労組がゼネストに入った事などを受けてユーロ売りが活発化。米新規失業保険申請件数が弱い結果となり、時間外のNYダウ先物が下落したタイミングでユーロ/円は108.76円まで下落したが、その後NYダウ平均株価が持ち直すと109.30円台まで反発した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今月のポイント

3月のユーロ/円相場は105.64円～111.42円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは2.2%の上昇(ユーロ高・円安)となった。3月は、ギリシャ懸念の後退や債務危機に対する金融安全網の整備など、ユーロにとっての好材料もあったが、ユーロ/ドルが月間を通してほぼ横ばいで推移した事から「ユーロ高」よりも「円安」が主導する形でユーロ/円が上昇した月であったと言える。3月の「円安」の最大の要因は、日銀による積極緩和姿勢の強化であり、今月も「円安」基調が継続するか否かを判断する上で、10日に発表される日銀の金融政策及び白川総裁の会見内容が注目されよう。

一方、ユーロ圏では欧州中銀(ECB)が4日に政策金利を発表するが、足元の債務危機の落ち着きや、くすぶるインフレ懸念を背景に追加利下げ観測はほぼ消滅した。日銀の出方次第では金融政策格差からユーロ高・円安に振れる可能性がありそうだ。

もっとも、リスク回避の「円高」が進むリスクも想定しておく必要があるだろう。景気減速懸念が台頭している中国の3月消費者物価指数(9日)や第1四半期国内総生産(GDP、13日)などの結果や3月下旬に調整色を強めた上海総合株価指数の動向に注意する必要がある。また、今月下旬から来月上旬にはギリシャで総選挙が行われる。追加支援を獲得するために、厳しい条件の緊縮財政政策の履行を欧州連合(EU)と約束した連立与党の惨敗が予想されており、政権を奪取した野党が緊縮策の見直しに言及する可能性がある。そうなると、支援する側のEUから猛反発が予想され、最悪の場合、追加支援自体が白紙に戻される可能性も出てくる。少なくとも、月間を通してリスク・オンのユーロ高・円安が大幅に進むことは考えにくい。(神田)

(予想レンジ:106.30～114.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/2(月)	日銀短観	4/17(火)	3月ユーロ圏消費者物価指数
	2月ユーロ圏失業率	4/17(火)	4月独ZEW景況感調査
4/4(水)	2月ユーロ圏小売売上高	4/19(木)	3月日本通関ベース貿易収支
	欧州中銀政策金利発表		4月ユーロ圏 消費者信頼感・速報
4/5(木)	2月独鉱工業生産	4/20(金)	4月独IFO景況指数
4/6(金)	3月米雇用統計	4/25(水)	FOMC政策金利発表
4/9(月)	3月中国消費者物価指数	4/26(木)	4月独消費者物価指数・速報
4/10(火)	日銀金融政策決定会合(9日～)	4/27(金)	第1四半期米GDP・速報値
4/12(木)	2月ユーロ圏鉱工業生産		3月米消費者信頼感指数
4/13(金)	第1四半期中国GDP	4/30(月)	4月ユーロ圏消費者物価指数・速報

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.3323ドル	1.3385ドル	1.3004ドル	1.3341ドル



①	2日、独1月小売売上高指数が前月比-1.6%と予想(+0.5%)に反して低下した事をきっかけにユーロ売りが活発化。その後、スペインのラホイ首相が同国の2012年財政赤字について、対国内総生産(GDP)比4.4%の(EUとの)合意目標を達成できない見通しとなり、5.8%に緩和すると発表した事を嫌気してユーロ売りが加速すると。ユーロ/ドルは1.32ドルを割り込んで下落した。
②	8日、欧州中銀(ECB)は政策金利を予想通り1.00%に据え置いた。その後、ドラギ総裁の会見では、2012年のインフレ見通しを上方修正(1.5~2.5%を2.1~2.7%へ)した一方で、成長率見通しを下方修正(-0.4~+1.0%を-0.5~+0.3%へ)した。会見直後にユーロは乱高下したものの、この日、申込み期限を迎えるギリシャの債務交換について「民間債権者の参加率が集団行動条項(CAC)を発動しない水準とされる90%を上回った」と報じられるとユーロが上昇。ユーロ/ドルは1.3291ドルまで上値を伸ばした。
③	9日、ギリシャ政府が同国の債務交換に対する民間債権者の参加率が85.8%と発表した上で、全ての民間債権者に強制的に債務交換に応じさせるCAC条項を発動する方針を示すとユーロ売りが活発化。さらに米2月雇用統計で非農業部門雇用者数が前月比で22.7万人増となり、予想(21.0万人増)を上回るとドル買いが活発化した。その上、格付け会社フィッチがギリシャの格付けを「制限的デフォルト」に格下げするとユーロ安・ドル高が加速し、ユーロ/ドルは1.31ドルを割り込んで下落した。
④	19日、ギリシャ政府が、一部の民間債権者に債務交換を強制した事で信用事由が発生していた国債CDSの取引清算入札が行われ、売り手側の支払い負担が額面の21.5%となった。市場に混乱を及ぼすほどの金額(総支払額を25億ドルと試算)ではなかった事や、ECBが前週の国債買い入れはなかったと発表した事を受けて債務問題に対する懸念が和らぐと、ユーロ/ドルは1.3265ドルまで上昇した。
⑤	26日、メルケル独首相が「欧州金融安定基金(EFSF)と欧州安定メカニズム(ESM)を並行稼働させる可能性がある」などと発言した事を受けてユーロが上昇。さらに米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が「労働市場は正常からは程遠いままだ」「雇用市場に大きな進展をもたらすために金融緩和は必要とされる」などと発言した事を受けて米国の追加金融緩和観測が再浮上し、ドル売りが強まるとユーロ/ドルは1.33ドル台を回復した。
⑥	30日、欧州連合(EU)が「現在の救済基金の上限を7000億ユーロに引き上げる」「およそ8000億ユーロを救済に回せる」等と発表。また、スペイン政府は2012年の予算案を閣議で承認し、財政赤字削減に向けて節減目標を270億ユーロとした。ユーロ/ドルは、四半期末の最終日で積極的な売買が手控えられた事もあって直後の反応こそ限られたが、これらを好感してNYダウ平均株価が上昇すると1.33ドル台で底堅く推移した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今月のポイント

3月のユーロ/ドル相場は1.3004ドル～1.3385ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは15ポイント程度の上昇と、ほぼ横ばいとなった。3月は、ギリシャ懸念の後退や債務危機対策としての安全網拡充といったユーロの好材料を背景に、地合はリスク・オンとなったものの、米国では、2月雇用統計の改善や連邦公開市場委員会(FOMC)声明における景気認識の上方修正といったドル買い材料があったため、ユーロ/ドルは方向感に乏しい展開となった。ただ、3月下旬には一旦後退していた米追加緩和観測が再浮上しており、ユーロ/ドルは高値圏で推移している。欧州債務危機の拡大懸念がひとまず収まった事もあり、4月相場の焦点は、ドルの方向性という事になるだろう。

ドルの方向性を見る上で、6日の米3月雇用統計や16日の米3月小売売上高などの景気指標が注目となり、好結果ならユーロ安・ドル高、弱い結果ならユーロ高・ドル安に振れる展開となりそうだ。もっとも、25日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、バーナンキ議長やイエレン副議長といった主要メンバーは米景気に対する慎重な見方を崩していないため、その声明も早期のゼロ金利解除を示唆するようなタカ派的な内容となる事は考えにくい。米長期金利の上昇を伴わないドルの上昇には限界があると見られる一方で、ギリシャの総選挙(4月下旬から5月上旬の予定)などのリスクイベントを考慮するとユーロが一段と上昇する事も考えにくい。結果的にユーロ/ドルは、レンジ相場継続をメインシナリオに考えておきたい。(神田)

(予想レンジ:1.2950～1.3600ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/2(月)	2月ユーロ圏失業率	4/17(火)	4月ユーロ圏ZEW景況感調査
	3月米ISM製造業景況指数		3月米住宅着工件数
4/3(火)	FOMC議事録(3月12・13日分)		3月米鉱工業生産
4/4(水)	欧州中銀政策金利発表	4/19(木)	4月ユーロ圏消費者信頼感・速報
	3月米ADP全国雇用者数	4/20(金)	4月独IFO景況指数
4/6(金)	3月米雇用統計	4/24(火)	4月米消費者信頼感指数
4/9(月)	3月中国消費者物価指数		3月米新築住宅販売件数
4/11(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)	4/25(水)	FOMC政策金利発表
4/12(木)	2月ユーロ圏鉱工業生産	4/26(木)	4月独消費者物価指数・速報
4/13(金)	第1四半期中国GDP	4/27(金)	第1四半期米GDP・速報値
	3月米消費者物価指数	4/30(月)	4月ユーロ圏消費者物価指数・速報
	4月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		
4/16(月)	3月米小売売上高		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	129.10円	133.47円	126.50円	132.59円



①	6日、「ギリシャ政府は債務交換協議に対する民間部門関与 (PSI) の締め切りを8日から14日に延長を検討」との噂から民間の参加率が不十分になるとの懸念が広がりユーロ/円が急落すると、ポンド/円も連れてNY市場にかけて下落。126.50円まで値を下げた。
②	8日、ギリシャの債務交換について民間参加率が高水準になるとの観測から欧州株が大幅に上昇すると、ポンド/円も大幅高になった。なお、英金融政策委員会 (MPC) では政策変更なく、材料視されなかった。
③	13日、日銀の追加緩和期待を背景に円安が進みポンド/円は上昇したが、14時過ぎに日銀が資産購入基金の増額などの追加金融緩和を見送った事が伝わると、失望感から株安となり円買い優勢に転じた。ただ、その後の記者会見で白川総裁が金融緩和姿勢を改めて強調したことを受け、円は再び売り優勢に転換。米国市場序盤にNYダウ平均が上昇すると、ポンド/円は一段と上昇した。
④	20日、欧州市場序盤にドル/円の上昇にポンド/円は連れ高。さらに、英2月消費者物価指数が前年比+3.4%と予想(3.3%)を上回ったこともポンドの買い材料となり、132.98円まで上昇した。しかしその後は資源大手BHPピリトンが「中国の鉄鉱石需要が鈍化しつつある兆候がみられる」との見解を示した影響を受け、欧米株が軟化したことを背景に上げ幅を縮小した。
⑤	21日、欧州株の上昇を背景に上昇。英金融政策委員会 (MPC) 議事録にて「政策金利据え置きは9対0で決定」「資産買い入れ枠据え置きは7対2で決定」「ポーゼン委員とマイルズ委員より更なる資産購入の拡大が必要と指摘」とあったことから一時ポンドが売られる場面も見られたが、他のクロス円の上昇に連れ、133.47円の高値をつけた。ただし、その後にスペインの債務不履行リスクについて懸念が広がり、ユーロ/円が値を下げると、ポンド/円も連れて失速した。
⑥	22日、中国、仏、独の製造業PMIが軒並み弱く、主要国株価が下げたことから、ポンド/円は下落。また、英2月小売売上高指数が前月比-0.8%と予想(-0.5%)を下回ったこともポンドの売り材料となった。
⑦	26日、米連邦準備制度理事会 (FRB) のバーナンキ議長が「雇用市場に大きな進展をもたらすために金融緩和は必要とされる」などと発言すると、米国の追加金融緩和観測が急浮上。これを受けて株高が進むと、ポンド/円も上昇した。
⑧	27日、米系シンクタンクが「日銀がインフレ目標を達成するため追加緩和を検討」とのレポートを発表した事を手掛かりに円売りが進むと、ポンド/円は133.36円まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

今月のポイント

3月のポンド/円相場は126.50～133.47円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.6%の上昇(ポンド高・円安)となった。3月のポンド/円相場はあまり主体性がなく、おおむねドル/円に連れて月前半に上昇し、後半は高値圏でのみ合いに終始した。

先月の英国の金融政策委員会(MPC)の要人の発言内容を振り返ってみると、議事録では依然としてマイルズ委員とポーゼン委員がさらなる緩和規模の拡大を主張していたことが明らかになったものの、そのポーゼン委員から、「以前の様な下振れリスクは懸念していない」と楽観的な発言が出るなど、英国の経済の先行きについての過度な緊張感は和らいできているように見える。近い将来の英金融政策の追加緩和観測が意識されない限り、ポンド/円相場が主体的な動きをする公算は小さく、目先は日本の経済指標などを受けた円売りの動きや、欧州債務問題や米国経済の回復ぶりを確認しながら動く主要国株価の動きに素直に連れるものと考えられる。

なお、3月下旬からポンド/円は133円台半ばで上値が抑えられる展開が続いているが、この上値の重さを払拭出来れば、少なくとも昨年5月末に付けた135.11円、そこを突破した場合は同じく昨年4月28日に付けた高値137.01円まで上値余地が拡大するとみる。上昇に拍車がかかるようなら、昨年高値140.00円も視野に入ってくる可能性もある。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 126.50～138.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

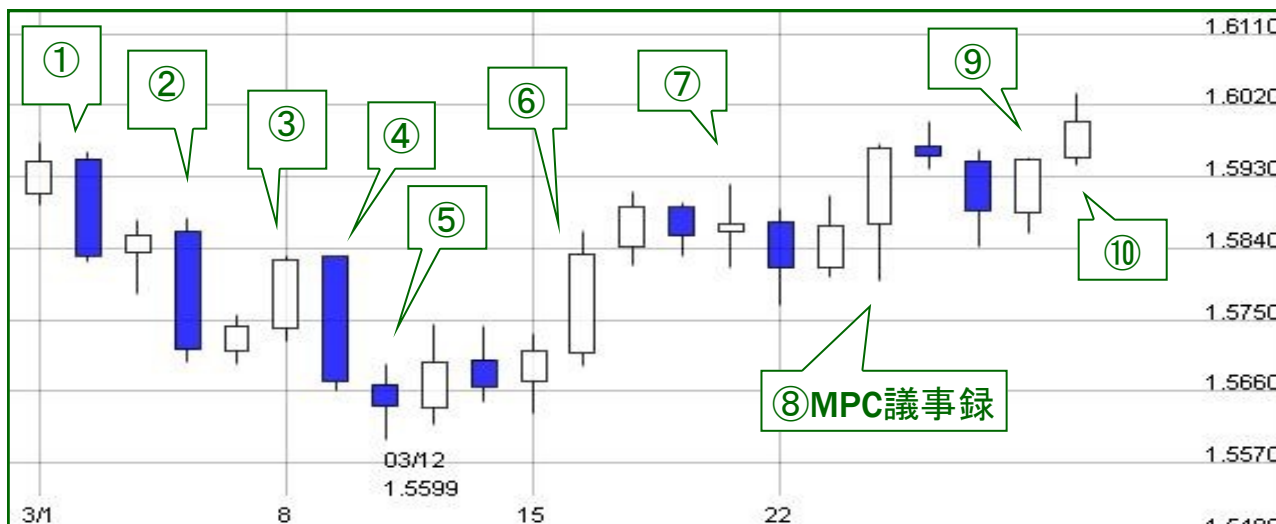
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/2(月)	3月英PMI製造業	4/13(金)	第1四半期GDP
	3月米ISM製造業景況指数		3月英生産者物価指数
4/3(火)	3月英PMI建設業	4/17(火)	3月英消費者物価指数
4/4(水)	3月英PMIサービス業	4/18(水)	3月英雇用統計
	3月米ADP全国雇用者数		BOE議事録
	3月米ISM非製造業景況指数	4/19(木)	3月日通関ベース貿易収支
4/5(木)	2月英鉱工業生産	4/20(金)	3月英小売売上高指数
	BOE政策金利発表	4/25(水)	第1四半期英GDP・速報値
4/6(金)	3月米雇用統計	4/27(金)	第1四半期米GDP・速報値
4/9(月)	2月日経常収支	4/30(月)	4月米シカゴ購買部協会景気指数
	3月中国消費者物価指数		
4/10(火)	日銀金融政策決定会合(9日～)		
4/12(木)	2月英商品貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.5908ドル	1.6035ドル	1.5599ドル	1.5999ドル



①	2日、ユーロ/ドルが下落した上、小高く始まった欧州株が弱含んだことを受け、ポンド/ドルは下落。さらに、スペインのラホイ首相が同国の財政赤字について2012年の目標を対GDP比5.8%と、欧州連合(EU)との合意目標(4.4%)を達成できない見通しとしたことを嫌気しユーロ/ドルの下げが加速すると、ポンド/ドルは一段安となった。なお、英2月PMI建設業は54.3(市場予想51.3、前回51.4)→反応は限定的だった。
②	6日、「ギリシャ政府は債務交換協議に対する民間部門関与(PSI)の締め切りを8日から14日に延長を検討」との噂から民間の参加率が不十分になるとの懸念が広がりユーロ/ドルが急落すると、ポンド/ドルも連れてNY市場にかけて下落した。
③	8日、ギリシャの債務交換について民間参加率が高水準になるとの観測から欧州株が大幅高になると、ポンド/ドルも上昇した。なお、英金融政策委員会(MPC)では政策変更なく、材料視されなかった。
④	9日、ギリシャの債務交換参加率は85.8%で同国は全ての民間債権者に債務交換を強制する集団行動条項(CAC)を発動する方針を示した。これを受けユーロ/ドルが急落するとポンド/ドルも下げた。
⑤	12日、まとまった規模のポンド売り・ドル買いが入り、ポンド/ドルは急落。1.5599ドルまで値を下げた。
⑥	16日、欧州株が堅調に推移する中でポンド/ドルは上昇。さらに、21時30分に発表された米2月消費者物価指数が総合指数では前月比+0.4%と市場予想通りの結果だったが、コア指数が前月比+0.1%と市場予想(+0.2%)を下回ったことでドル売りが強まると、1.5860ドルの高値をつけた。
⑦	21日、欧州株の上昇を背景に1.5921ドルまで上昇。しかしその後は、MPC議事録にて「政策金利据え置きは9対0で決定」「資産買い入れ枠据え置きは7対2で決定」「ポーゼン委員とマイルズ委員より更なる資産購入の拡大が必要と指摘」とあったことや、スペインの債務不履行リスクへの懸念からユーロ/ドルが下げたことを受け、ポンド/ドルは失速した。
⑧	26日、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が「雇用市場に大きな進展をもたらすために金融緩和は必要とされる」などと発言すると、米国の追加金融緩和観測が急浮上。ドル売りが強まり、ポンド/ドルは1.59ドル台後半まで上昇した。
⑨	27日、イタリア国債入札が好調だった事を受けユーロ/ドルが上昇すると、ポンド/ドルも連れ高したが、1.60ドル手前で上値が重く、失速。その後、日本の追加緩和観測が浮上し、ポンド/円が大きく値を伸ばすとポンド/ドルも再度上昇したが、再び1.60ドル、目前で跳ね返された。
⑩	30日、期末特有のポジション整理の動きからドル買いが強まると、ポンド/ドルは1.6035ドルまで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今月のポイント

3月のポンド/ドル相場は1.5599～1.6035ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.5%の上昇(ポンド高・ドル安)。この月のポンド/ドルは月前半は米国の良好な経済指標を背景に米追加金融緩和観測が後退する中、ドル買いが優勢となったが、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が労働市場に対して改めて懸念を示したり、米経済指標に冴えないものが目立ってくると、そうした動きが一服。ギリシャなど欧州債務問題に対する過度の不安が薄れていたこともあり、その後はポンド買いの方がむしろ優勢になった。

英国の金融政策委員会(MPC)の要人発言を見て行くと、議事録では依然としてマイルズ委員とポーゼン委員がさらなる緩和規模の拡大を主張していたことが明らかになったが、そのポーゼン委員から、「以前の様な下振れリスクは懸念していない」と楽観的な発言が出るなど、英国の経済の先行きについての過度な緊張感はやや和らいできているように見える。盤石なものではないが、英米の金融政策について、米国の追加緩和の方が先に意識されるようだと、ポンド/ドルは一段と上昇する可能性が出てくる。また、主要国株価が引き続き堅調に推移すれば、それもポンド/ドルには上昇要因となる。

ただし、引き続き欧州の問題には要注意だ。3月までは一服していたが、4月後半以降、ギリシャの総選挙が始まるため、再び政局不安→財政再建が遅れるとの懸念が広がる、という展開になることが考えられる。そうしたムードが広がり、主要国株価が値を下げれば、当然ポンド/ドルには押し下げ要因として働くだらう。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.5500～1.6600ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/2(月)	3月英PMI製造業		3月英生産者物価指数
	3月米ISM製造業景況指数		3月米消費者物価指数
4/3(火)	2月英PMI建設業		3月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	米FOMC議事録(3月12・13日)	4/16(月)	3月米小売売上高
4/4(水)	3月英PMIサービス業	4/17(火)	3月英消費者物価指数
	3月米ADP全国雇用者数		3月米住宅着工件数
	3月米ISM非製造業景況指数	4/18(水)	3月英雇用統計
4/5(木)	2月英鉱工業生産		BOE議事録
	BOE政策金利発表	4/20(金)	3月英小売売上高指数
4/6(金)	3月米雇用統計	4/25(水)	第1四半期英GDP・速報値
4/9(月)	3月中国消費者物価指数		米FOMC政策金利発表
4/12(木)	2月英商品貿易収支	4/27(金)	第1四半期米GDP・速報値
4/13(金)	第1四半期中国GDP	4/30(月)	4月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。